

ひかり

2023年1・2月号



日本聖公会 三光教会

第710号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

Lent

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

明日のことを思い煩ってはならない。

明日のことは明日自らが思い煩う。その日の苦労は、その日だけで十分である。

(マタイによる福音書 6:34)

サウルとダビデ

司祭 アモス金 大原

キム デウオン

世の中のすべての誘惑の根は「あなたが神のようになる」という蛇の言葉だと思っています。自分を強くし、他人をコントロールし、自分の思い通りにしたい欲望に捕らわれると、関係は破綻に至るものです。それでは、良い関係を保つために必要なのは何でしょうか。支配を諦めることです。支配ではなく交わり、競争ではなく協働、独り占めではなく分かち合いを目指し、直してあげたい気持ちを捨ててありのままを受け入れると、関係は良くなるでしょう。誰かの仲間になることはまさにこのようなものです。しかし、人間の思いは微妙なもので、心が豊かになって利他的になることがあれば、心が凍って利己的な思いに駆られることもあるのです。イスラエル建国期に活躍した二人の人物、サウルとダビデの物語をもっとどう生きるべきかを考えてみましょう。

「サムエルは油の小壺を取り、

サウルの頭に油を注ぎ、口づけして、言った。「主があなたに油を注ぎ、ご自分の民の指導者とされたのです。」(サム上10:1)

コアウルは悲運の人物でした。士師時代の終わり頃、彼は自分の意志とは関係なく歴史の舞台に押し出されました。ベニヤミン族に属する有力な家柄の出身でありながらも、サムエルに出会うまではただの平凡な青年だったのです。しかし、サムエルによって油を注がれた運命のその日、恥ずかしがり屋で素朴だった彼がイスラエルの指導者と任命されたその日、両腕と頭で天の蒼穹を支えているギリシャ神話のアトラスのように、サウルは民族の運命を背負うことになりました。最初に彼に付けられた職位は「指導者」でした。ヘブライ語では「ナギド (nagid)」で、もとは「前に立つ者」という意味を持つ言葉でした。後ろでコントロールする者ではなく、率先して模範を示し、民を導く者なのです。

ところが、彼はしばらくして「王」という呼称を得ます。王は「メーレク (melek)」という言葉葉が使われたのですが、これはイ

スラエルにはなくて、他の国から持ってきた言葉でした。「メーレク」は「治める者」という意味です。「治める」という言葉の中には階級が前提されています。最初に油を注がれた時に、サウルは自分のことを「ナギド」として思っていたに違いありません。でも徐々に「メーレク」としてのアイデンティティに慣れていってしまった。魂の転落は知らぬ間に少しずつ進む者です。他人に仕えられるのが、また特権を行使するのが当たり前のようになり、正しい言葉は聞きたくなくなり、甘い言葉に耳を傾けるようになりました。自分でない他の者に人の目が注がれることに耐えられなくなり、彼は抑圧的な者に変わってきます。結局は自分の手で祭祀を行う大失態まで犯してしまいました。

「サムエルはサウルに言った。「あなたは愚かなことをした。あなたの神、主が命じられた戒めを守らなかった。今まさに、主はあなたの王権をイスラエルの上にとこしえに確立しようとしておられたのに。しかし、今となっては、あなたの王権は立ち行かない。」(サム上13:13)

― 次号に続く ―

2月～3月の予定

◆2月

19 日(日) 大斎節前主日
22 日(水) 大斎始日 (灰の水曜日)
23 日(木) 殉教者主教ボリカープ
24 日(金) 使徒聖マッテヤ日
26 日(日) 大斎節第1主日

◆3月

1 日(水) 主教デイビッド
3 日(金) 春期聖職按手節
4 日(土) 春期聖職按手節
5 日(日) 大斎節第2主日
6 日(月) 3月逝去者記念礼拝
7 日(月) 殉教者バベチユアと仲間たち
12 日(日) 大斎節第3主日
17 日(金) 主教パトリック
18 日(土) 主教教會博士エルサレムのシリル
19 日(日) 大斎節第4主日
20 日(月) 聖ヨセフ日
21 日(火) 主教トマス・克蘭マー
25 日(土) 聖マリヤへのみ告げの日
26 日(日) 大斎節第5主日

◆復活日 4月9日(日)

主日に集うことの意義

橋本周二郎

学生時代、いろいろな方々から様々なお話を聞きました。

教区の研修会で、亡くなられた竹内謙太郎司祭が「教会はギリシャ語でエクレシアと言います。その語源は議会です。つまり日曜日に教会に集うということはクリスチャンとして資格を得て、意志を持って出席するということである。つまりイエス・キリストが招かれた食卓に、クリスチャンとしてパンとぶどう酒に授かることが聖餐式です。日曜日に聖餐式に出席しないことはその日はクリスチャンではない、ということになります。」というお話をされました。

当教会の説教で当時の主任牧

師今井丞治司祭は「外国の礼拝に出席した時に、泣きながら人形を奉じている小さい女の子がいました。彼女にとっては、それがなければ寝ることができないかもしれないほど大事なものだっただけでもない。余っているものを奉げるのではなく、金額の大小でもなく、とても大事なものを奉げるということに興味があるのかもしれない。」と話されました。

父からこんな話を聞いたことがありません。「安息日は何もしない日。奴隷でさえもその日ばかりは労働が許され、休むことができた。つまりそれは、一週間の内一日のみ、人間として生きることができたとと言える。その勝ち得た安息日だからこそ、主の日として感謝する日となる。」

毎週日曜日には多くの方々が

教会に足を運ばれます。集まる理由

はきつと様々でしょう。また、

教会に集えない人々も様々な理由

で聖餐式を守れないでいるのだと

思います。その中で何とか毎週教

会に来ることができている私は、

恵まれた環境なのかもしれません。

私たちは、聖餐式において生

活での過ちを懺悔し、御言葉にて

福音を学び、共に祈り、神の赦し

と聖餐に与って、それぞれの持ち場に送り出されるというプロセスを毎日曜日に行なっています。「日々忙しく働きながらよく教会に通えますね」との質問が度々ありますが、結局は「記念としてこれを行なえ」をただただ守る、というお答えしか用意できないでいます。

長い歴史の中、様々な国で、老若男女いろいろな人が、強い思いを持って守ってきたこと、それを多くの方々と共につないでいけたらと思っています。

公 示

日本聖公会法規第 138 条の規定に従い、日本聖公会東京教区 三光教会（定期）堅信受領者総会を下記のように召集します。

しかし、新型コロナウイルス禍の中、昨年 12 月の教会委員会で今年も聖堂に集まり堅信受領者総会を開催するのは難しいと判断し（開催日が確定できない、3 密の回避）、書面（郵送）による堅信受領者総会を開催することに致しました。

書面による議決を実施するにあたり本日、議案を同封します。

なお、本公示は、現在堅信受領者(2022 年 12 月末現在)の方々にお知らせしております。

2023 年 2 月 19 日

日本聖公会 東京教区 三光教会

牧師 司祭 アモス金 大原

記

日時： 2023 年 4 月 2 日(日) 復活前主日 書面による議決

場所： 三光教会 聖堂

- 議案 1. 2022 年度 教務報告 承認の件
- 議案 2. 2022 年度 活動報告 承認の件
- 議案 3. 2022 年度 会計決算報告・会計監査報告 承認の件
- 議案 4. 2023 年度 活動計画案 承認の件
- 議案 5. 2023 年度 会計予算案 承認の件
- 議案 6. 教会委員 75 才定年制 承認の件
- 議案 7. 教会委員定数削減 承認の件

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前 10 時から 1 時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。

- 礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

- 午前 7:00 早祷・嘆願
- 午前 7:30 聖餐式
- 午前 10:30 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
- 午前 10:30 聖餐式
- 午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式